

「第7回オープン！子ども・家庭大臣室 in 静岡」 ～子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム静岡大会～

■開催状況

- ・日時 平成20年2月2日(土) 10:00～11:40
- ・場所 あざれあ(静岡県静岡市)
- ・出席者
 - 【コーディネーター】 福永 博文(浜松学院大学教授)
 - 【パネリスト】 片岡 征哉(焼津市立小川小学校「おやじの会」代表)
加納 永子(静岡県地域活動連絡協議会会長)
大橋 勝彦(子どもを育む地域教育活動実践者(通学合宿等)
「長泉イチゴ会」副代表)
戸塚 修子(倉真子育て支援事務所「パンダひろば」副所長)
 - 【その他出席者】 100名程度
 - 【内閣府】 上川内閣府特命担当大臣(少子化対策) ほか

■次第

(1) シンポジウム(テーマ:子育てを支える地域の力)

上川大臣から、期待を込めたあいさつ

- ・ 私は大臣に就任して以来、現場の皆さんの声をたくさん頂戴しながら、それを施策にできるだけ反映させようとの思いで活動して参りました。
- ・ 本日この分科会に参加し、皆様の日頃の活動やその成果について、お聞かせいただく機会を得ましたことは大変うれしいことであり、心から感謝申し上げます。
- ・ 分科会では、各団体の活動等のご報告をいただけるとのことですが、現場において子どもたちや子育て家族をどのように地域全体で支えているのか、これからの活動の方向性や課題、国への要望などについても、率直なお声をお聞かせいただければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。



この後、福永先生のコーディネートで、子育てを支える地域の取組事例について報告

(焼津市立小川小学校「おやじの会」代表の片岡征哉さんより)

- 子どもを対象としたイベントを開催し、子どもたちとふれあう機会を多く持つことによって、父性の大切さを改めて考え直し、家庭教育の充実に役立てていきたいと考え、平成 14 年に焼津市立小川小学校で発足しました。
- 発足当初の主な活動は、稲刈りや餅つきなどの体験授業への参加、校内清掃、学校行事の際の駐車場係、PTA活動への参加などでした。
- マスコミなどで何度も紹介されておりますが、「小川おやじの会」の目玉は、夏休みに小川小学校の校舎を借りて開催する「お化け屋敷大会」です。この「お化け屋敷大会」は、ただ怖いだけではなく、子どもたちに何かを学んでほしいと考え、毎年、いろいろな隠れたテーマをストーリーに盛り込んでいます。仮想のストーリーではありますが、本物の校長先生や教頭先生、お坊さん、地域の方々に出演していただいています。
- 「小川おやじの会」の特徴は、主導を学校に依存せず、自分たちで企画運営をしているところです。皆さん仕事を持っているので、ほとんど打合せなしですが、どんなイベントも成功させています。本当におやじパワーはすごいと思います。
- 最大の特徴は、おやじジュニアーズと呼ばれる子どもたちがボランティアで参加していることです。平成 15 年、当時の小学 6 年生の男児 8 名で結成されたジュニアーズは、高校生になった今年も手伝いに来てくれました。今では後輩である小川中学校生に伝統として受け継がれ、毎回たくさんの男子、女子中学生が活動に協力してくれます。
- 私たちは、お金を掛けず、子どもも身一つで来れば楽しめる活動、親御さんの負担のない活動を考えています。仕事や家庭を最優先にさせていただいておりますので、人手不足なのですが、ジュニアーズに助けてもらい、学校や地域の方々に気持ちよく協力していただくことで、私たち「小川おやじの会」は成り立っています。
- 今後ですが、活動の場をもっと地域社会に広げていき、私たち「おやじの会」が学校、PTA、地域を結びつける橋になりたいと思います。各世代のふれあいがある地域は明るく、犯罪のない町ができると信じています。また、親としても、自分の子ども以外の子どもたちとふれあうことにより、いろいろなことを学ばせていただき、我が子とのふれあいや家庭教育の充実に役立てていきたいと思っています。

(静岡県地域活動連絡協議会会長の加納永子さんより)

- 私たちクラブは「まちの子はみんなわが子」を合言葉に、子どもたちの健全育成のために地域ぐるみでボランティア活動をする組織です。静岡県内では 51 クラブ、2400 人程の方が、各市町村の現状を踏まえながら、それぞれ母親クラブみらいネットという名前で活動をしています。
- 子どもたちの交通事故が大変多くて、亡くなるこ



とが多かったものですから、毎年、子どもたちがサンタクロースの格好をして、静岡駅で交通安全キャンペーンを行っております。その際にマスコットを配っておりますが、これは県内会員の皆さんに作っていただいたものです。

- また、赤ずきんちゃんが「あざれあ」に行くという設定で、その道すがら、オオカミ役の人が現れて赤ずきんちゃんを誘うけれども、最後には無事に着くという寸劇を見せております。子どもたちは、本当に真剣になって「あつ、そっち行っちゃダメ！危ない」とか「その人、ダメ！」とか言いながら、一生懸命考えて見ております。
- このときのDVDを全部作りまして、単位クラブ 51 に分けまして、台本も配っています。それぞれの地域で活動していただけたらと思っております。

（「長泉イチゴ会」副代表の大橋勝彦さんより）

- 平成 15 年度の P T A 役員が中心となり、自然体験を通して子どもたちを育むコンソーシアムとして「長泉イチゴ会」を結成しました。顔の見える地域づくりをテーマに活動しています。
- 「わんぱく通学合宿」は今年で 3 回目になりますが、地域の方々のご協力を得て、3 つの小学校の子どもたちが 1 つの場所に集まり、親たちのいない環境の中で日常生活を過ごすという催しを行っております。この 2 泊 3 日ないしは 3 泊 4 日の催しの中で、子どもたちは班別でいろいろ行動をします。最終日の交流発表会になりますと、伸び伸びとした笑顔がたくさん見られました。
- 2 つ目にご紹介させていただくのが「米づくり」です。1 年間を通じて稲作を手伝う機会を設け、その様子を「コメコメ通信」というブログで紹介しています。米づくりというと、田植えと稲刈りというイメージしか湧きませんが、実際は、田起こしや草むしり、代かきなどがあります。大人にとっても貴重な経験ではありますが、これを 1 年間かけてやりまして、また 12 月末にはこの藁を使ったしめ縄づくりなども行っております。これまでの経験を生かして、是非また来年、展開していきたいと考えております。
- 3 つ目に「富士山ふもとの楽校」について紹介させていただきます。これは、学びや支え合いの事業で、長泉町のコンソーシアム「イチゴ会」と裾野市のコンソーシアム「親父の会」が核となり、地域の方を巻き込みまして、登山、農業、地域とのふれあいを柱とした体験活動を行ってまいりました。1 番目に 7 月に富士登山を行いました。富士登山というと誰でも登れるようなイメージもありますが、大変過酷な山で危険なこともたくさんあります。参加人数は限られますけども、大変いい経験をさせていただきました。
- また、長泉町は四つ溝柿の産地です。地元の農家、農協のご協力をいただき、この収穫作業も体験させていただきました。通学途中などで身近に見る柿ですが、意外と収穫とか、どうやって育てられているとか、それからここは渋柿なもんですから、渋の抜き方につ



いても、農家の方に教えていただき体験させていただきました。

- ・ 裾野の「親父の会」で毎年餅つき大会を行っておりますが、このノウハウを生かして、地元の婦人会にもご協力いただきながら、長泉町で餅つき大会を行いました。ブログに子どもたちの感想も載せていますが、お餅は生で食べたらお腹をこわすとか言って、食べちゃいけないなんてことを子どもたちが言うようなシーンにも遭遇しまして、驚きました。

(倉見子育て支援事業所「パンダひろば」副所長の戸塚修子さんより)

- ・ 「パンダひろば」は2003年4月の倉見幼稚園の廃園に伴って、園舎、園庭の有効活用を目的に設立され、2005年4月より子育て支援事業「つどいのひろば」を展開しました。この事業は地域に再び子どもたちの声を響かせたいという熱い思いから立ち上げられたもので、子育て親子がどこの地域からも自由に集い、子育てが楽しいものを感じられ、また、乳幼児の心身ともに健やかな発育を願って、活動・支援をしております。



- ・ 「パンダひろば」では自由あそびを主体として、支援保育を毎回30分から1時間、親子に提供しています。音楽遊びやリトミック製作、クッキングのほかに、野菜栽培や季節の行事、自然とのふれあいなどの支援があります。支援保育の参加は自由ですが、指導員がいろいろな遊びを提供することで遊びも広がり、自由遊びが更に広がります。子どもはお母さんや周りの大人の温かい眼差しの中で、好きな遊びを選び、取り組むことによって、自立性がめばえ、思い切り遊ぶ楽しさを学ぶことができると考えています。
- ・ 野菜栽培・収穫ですけれども、子育てと同じ思いを込めて親子で取り組んでいます。繰り返し土に触れる経験をして、野菜の成長や収穫の喜びで感動がいっぱいになります。「地域の自然とふれあう」では、近くの山や川への散歩などを行っております。また、倉見はお茶所なので、地元の協力を得てお茶摘み体験をさせてもらうこともあります。緑や川の流れなど自然とのふれあいにより、子どもも大人も生き生きと元気になるような気がします。
- ・ 「学童とのふれあい」では、「パンダひろば」が倉見小学校の学童保育と場所を共有しておりますので、放課後とか夏休みなどに小学生と一緒に遊ぶ機会があります。子どもたちは学校のお兄さん・お姉さんと遊べて喜び、お母さんは学校の子どもたちを見て、大きくなったらこうなるのだなああと子育ての予想を立てることができます。
- ・ 「ママリーダー」とか「お父さんの参加」では、利用される皆さんが自発的に、こんなことができますよとか、力になりますよとか声をかけるなど、それぞれリーダーになって参加してくれています。自分たちで作りあげる広場、みんなで作っていく広場という意識が生まれ、子育てにも前向きになっていきます。
- ・ 「地域との交流」では、おじいちゃん・おばあちゃんに感謝する会とか、餅つきで地域の方と交流をしています。地域の方といろいろな話ができ、親子にとって心温まる楽しい時間を過ごすことができます。核家族で家におじいちゃん・おばあちゃんがない親子にと

ってはふれあいの機会となり、大変喜ばれています。倉見の自然の中で少しずつ心がほぐれ、そこに集う子育ての仲間と打ち解けて話ができるようになり、一緒に笑って、一緒に楽しむことで、親も育っていくのではないのでしょうか。

- ・ 「パンダひろば」では文集を作っています。1年間の締めくくりとして、利用された感想などを載せてもらっておりますが、利用する前は育児書とにらめっこの毎日だったのが、「パンダひろば」に来るようになってからは不安がなくなり、育児書を見るのが少なくなりました、という感想が寄せられました。

次に、福永先生のコーディネートで掘り下げの議論へ

- ・ 次に今日のテーマであります「地域の力」という点に絞りまして、皆様方が活動を進めている中で、お感じになっておられること、あるいは考えていらっしゃるについての発言をいただきたいと思います。

(「おやじの会」の活動を通じた「家族・地域のきずな」について、片岡征哉さんより)

- ・ 「地域のきずな」に関しましては、「小川おやじの会」の特徴でもあります「おやじジュニアーズ」のことから話していきたいと思います。
- ・ 彼らは小学校のときの楽しい経験を基に、中学生、高校生になっても、ボランティアという形で積極的に活動に参加してくれています。やがて彼ら彼女らが親となっても、地域とのつながりを持ち続けてくれると信じています。このようにして世代間の隙間が少しずつ埋まっていき、地域のきずなが深まるのだと思います。
- ・ 「小川おやじの会」の活動を長く続けることで、幼児や小中高生、大人、年配の方々といった各世代のふれあいや、地域のきずなを深め、明るく犯罪のない地域づくりに貢献していきたいと思っています。
- ・ 父親の威厳が薄れたとか、子育てを放棄しているとか言われることもありますが、実は何をしてもよいかかわからない父親が多いのだと思います。「おやじの会」の活動をしておりまして、我が子とのふれあい方を考え直したり、我が子の気持ちが以前よりも分かるようになったと感じます。これこそが「家族のきずな」だと思います。



(児童虐待を予防する観点から地域の力がどのように関わり合えるのか、加納永子さんより)

- ・ 奇声を上げて飛んでいくお子さんがいらっしゃいますが、そのときには、これはちょっと危ないかなと思って、その親御さんのところに行きお話をします。
- ・ 「この子はお家にいてどんな様子?」、「おじいちゃんとか、おばあちゃんとかいるの?」「すごくかわいがってあげているの?」と尋ねると、この子はよく怒られるとのこと。それで、「お父ちゃんは何?」と聞くと、お父さんはやっぱり怒る。このお母さんには下に赤ちゃん

がいるので、「ママは赤ちゃんがいて忙しいね」というと、「そう」と言います。

- このお子さんは3歳以下ですけれども、もう大人の様子をうかがっているんですね。お母さんに「この子はお家に居場所がないよ。誰かこの子が安心していただける大人の人もいる？」と尋ねたら、「いない」とのこと。だから、ここに来て、赤ちゃんはおじいちゃん、おばあちゃんに見てもらい、この子には「好きよ」とか「かわいいね」とか言って、一生懸命愛情をかけたらどうかなとアドバイスをしたら、それからいつもお越しになっています。
- 私は、虐待を防ぐ地域の力というのは、まずは「声掛け」にあるのではないかと思います。だから母親クラブの会員の方には、声掛けをして下さい、笑顔で接して下さい、といつも伝えております。「かわいい赤ちゃんだね」、「いい子だね」と言われれば、親はそれだけでうれしいものです。ただ、そういう声掛けが、今の人はできていないかなと常々思います。私は虐待を防ぐ地域の力は、まずは「声掛け」「笑顔」にあります。それは男の人、女の人関係なくやっていただきたいというのが願いです。

(イチゴ会の「通学合宿」について、大橋さんより)

- 私たち「イチゴ会」では、平成16年度に第1回目の通学合宿を実施しました。最初は「イチゴ会」ほか3団体が核となりました。
- 普段の生活では、食事や就寝の準備、朝学校へ行く準備など、家の方に当たり前のようによってもらっている。自分ではやっているつもりでも、こういう環境におかれますと、意外とやっていないことに気付きます。これが子どもに対する効果ではないかと思います。
- 地域の大人たちにとってですが、各地域には、婦人会、老人会、そして子どもに関わる子ども会があります。それぞれ一生懸命活動していると思われませんが、意外と子どもとの接点が無いのではないかなと感じます。ですから、最初にこの話を地域に提案したときには、子どものことは子ども会がやればいいじゃないかというような反応が見られました。それが回を重ねていくうちに、地域の方々、特に婦人会には、朝晩の食事の準備に関わっていただけるようになりました。
- 地区のいろいろな団体の方々に通学合宿に関わっていただくことで、子どもたちと地域が接点を持つというような効果があるのではないかと思います。

(「パンダひろば」の活動の広がり、関わりから得られるものについて、戸塚さんより)

- 「パンダひろば」では一人一人の関わりを大事にしております。転勤で引っ越してきて近所にお知り合いがいない方ですとか、アパートの一室で悶々子育てをしていらっしゃる方に来ていただいて、一人一人の関わりを深めながらつながりを広めてきたと思います。
- 「パンダひろば」で遊んだこと、野菜栽培や川遊び、今まで知らない方でも一緒にお弁当を食べ話ができなことなどを体験をした親子が、これからも温かい人間関係ができると楽しいなという思いを持ってもらえれば、それぞれの地域でリーダーとなり活動する、ネットワークが広がるといった波及効果が生まれるのではないかと思います。

パネリストの報告を受けて、上川大臣より

- ただいま4人の方から活動のご報告を伺っての、私の印象を3点指摘したいと思います。
- まず1点目は、今日の4人のパネラーのお話を伺って、まさに子育て中の親御さんたち、あるいは親を応援する地域の人たちが、実に生き生きとして元気であること、そうした中で子どもたちが健やかに育っているという印象を強く持ちました。子育て中の親自身が、子育ては苦勞も多いけれど楽しいという気持ちがないと、子どもに対してもがんばれよと言えない。子どもの育ちに一喜一憂しながらも、前に向かって進もうという情熱を持つことが、子どもにとってとても大切であることを強く感じました。
- 2点目は、「母親クラブ」のご報告の中にあつた、虐待予防ということに関してです。家庭の中の様子は外にはわかりません。昔と異なり、家族の人数が少ないので、ふれあいがそれほどなく、非常にシンプルになっている。だから家族関係の輪、きずなが一つでも壊れると、家族関係全体の力も大変弱いものになってしまう。一方、お料理や後片づけを全部親がやってしまうので、親は一生懸命子育てしているのですが、子どもの生きる力は育っていない、そんなジレンマがあるように感じます。
- 小家族で育つ子ども自身のなかに、問題を発生させる要因が芽生えてしまう危険性がある。そうしたリスクの芽を外に引き出す、つまり家庭関係の中の見えない部分に光を当てる機会を、地域が作りだし、気づきの機会にすることの大切さを強く感じました。
- 3点目は、グループ活動はあるレベルに達すると少しマンネリになって、はじめのパワーが持続できないケースがあるように思います。たくさんのノウハウを次の世代の親父さんたちにも伝えていくという、この繋ぎの部分が大変大事ではないかと思ひます。
- 同時に、活動の中身は全然違っていても、子どもたちが健やかに育っていくということを目的としている他のグループとの活動とご縁があれば、そこから新しい企画を生み出すこともできる。その意味では、グループ同士の情報交換や新しい出会いは重要であり、自分たちの活動そのものにも輝きが出てくるのではないかと思ひます。
- すばらしい活動を地域でされていることを、静岡県、日本全国にどんどん広げて、子どもたちが、学校以外の地域においてもすばらしい体験ができるよう、政府としても力を入れていきたいと決意を新たにしたいところです。

